

平成 18 年度 病害虫発生予察情報 注意報 第 1 号

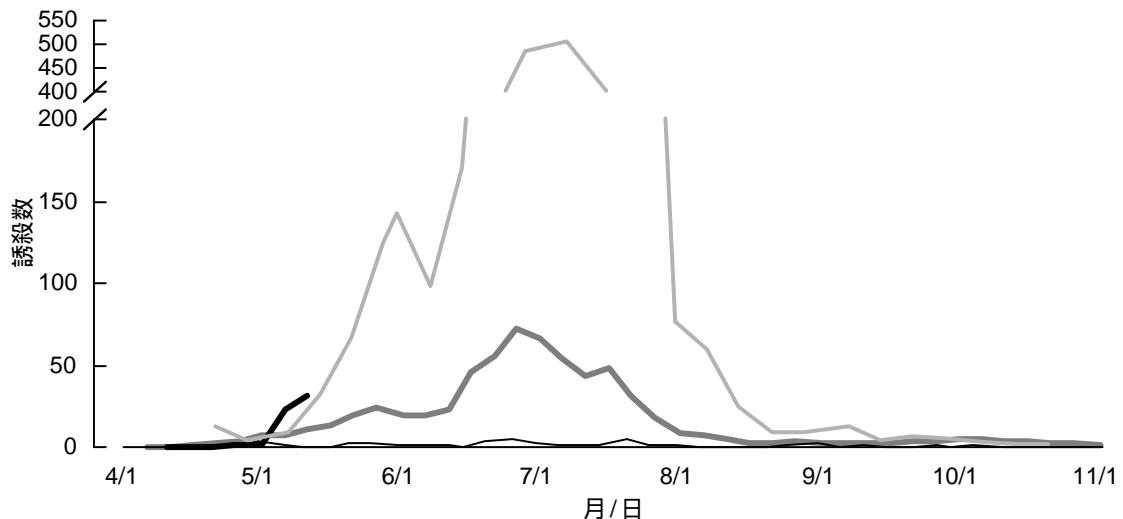
病害虫名： チャバネアオカメムシ
対象作物： ナシおよびリンゴ幼果

1．注意報の内容

- (1) 対象地域 都内全域
- (2) 発生量 多

2．注意報発令の根拠

- (1) 本年3月13日付の「平成17年度 速報 第1号」において、越冬量調査に基づいた本種の今春の発生量を「やや少ない～例年並」と予想していた。しかし、4月5日より設置しているフェロモントラップへの誘殺数（3トラップの平均値）が5月から急激に増加し、5月第1週の誘殺数は、過去8年間の平均値7個体に対し、23.3個体、5月第2週の誘殺数は平均値8個体に対し、31.3個体であった。これらの値は多発した2001年の12.4個体（5月第1週）ならびに22.1個体（5月第2週）をも上回っている（図1）。
- (2) ライトトラップへの誘殺開始時期は例年よりも早く、誘殺数も過去の同時期の調査と比べてやや多い。
- (3) 向こう1か月の平均気温、降水量はともに平年並と予想され、今後も発生に好適な条件が継続すると予想される。



— : 2006年, — : 2005年, — : 1998-2005年平均, — : 2001年(多発年)。
図1 チャバネアオカメムシ発生消長(立川市, フェロモントラップ3基の平均値)。

3. 害虫の生態ならびに防除対策

- (1) 成虫は、ウメ、ナシ、リンゴなど果樹の幼果、クワやサクラの実などを吸汁する。吸汁された果樹の幼果は生長するにつれて大きく変形する。
- (2) 幼果のうち、有袋栽培の効果が高い。
- (3) 本種は夜行性のため、夜温が高い夜には飛来が多くなるので注意する。
- (4) 果樹園への飛来が認められたら表1を参照して薬剤を散布する。
- (5) 合成ピレスロイド剤は天敵類に対する影響が大きいうえ、ハダニ類の発生を助長するのでなるべく使用を控える。
- (6) 農薬の散布時刻は果樹園への飛来が多い夕刻、または活動の鈍い早朝に行うのが良い。
- (7) 6月下旬頃から新成虫が羽化して秋まで果樹や果菜類・豆類などを吸汁加害する。

表1 主な防除薬剤

薬剤名	薬剤の系統	使用時期(日)	使用回数	ナシ	リンゴ
アドマイヤー顆粒水和剤*	ネオニコチノイド*	3	2		
ベストガード水溶剤*	ネオニコチノイド*	14	3		
アクタラ顆粒水溶剤*	ネオニコチノイド*	ナシ1 リンゴ7	ナシ3 リンゴ2		
アルバリン顆粒水溶剤*	ネオニコチノイド*	1	3		
スタークル顆粒水溶剤*	ネオニコチノイド*	1	3		
Mr. ジョーカー水和剤*	有機ケイ素	14	2		
スプラサイド水和剤	有機リン	ナシ7 ナシ45 リンゴ30	ナシ3 ナシ2 リンゴ2	有袋 無袋	
スミチオン水和剤40	有機リン	ナシ14 ナシ21 リンゴ30	ナシ6 ナシ6 リンゴ3	有袋 無袋	
ア-デント水和剤*	合成ピレスロイド*	7	3		
アグロスリン水和剤*	合成ピレスロイド*	1	3		
アディオンの乳剤*	合成ピレスロイド*	1	2		
アディオンのフロアブル*	合成ピレスロイド*	1	2		
ロディー水和剤*	合成ピレスロイド*	1	2		

*印は桑園の近くで使用してはなりません。

.....

防除所ホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>
 テレホンサービス042(525)8407
 今後の予察情報にご注意下さい。
 E-mailアドレス S0200303@section.metro.tokyo.jp